

ディボーション質問表



コリント人への手紙第二は、大きく分けると、「悔い改めた教会へ（1～9章）」と、「敵対者たちを念頭に（10～13章）」の二つになります。その中で、今週の箇所は「パウロの使徒としての権威の擁護（10：1～12：18節）」の部分です。

30日（月）コリント人への手紙第二 10：1～11

1. パウロは1節で「私は、あなたがたの間において、面と向かっているときはおとなしく、離れているあなたがたには強気な者です。」と語っています。彼はなぜこのような言い方をしているのでしょうか（10節参照）？
2. 3節の「肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。」とはどのような意味だと思えますか？ また4節の「私たちの戦いの武器」とは何だと思えますか？
3. パウロは権威（8節）についてどのような事を語っているのでしょうか？ その言葉から彼のどんな思いが感じられますか？

31日（火）コリント人への手紙第二 10：12～18

1. 「推薦」（12, 18節）という言葉が今日の箇所の最初と最後にあります。パウロはなぜこのような言い方をしているのでしょうか（3：1節参照）？
2. 「限度」（13, 15節）という言葉やそれに似た言葉がくり返されています。パウロはこのことばをどのような意味で用いているのでしょうか？ 彼のコリントの人々との係わりを通して学べる事はどのような事でしょうか？
3. 「推薦」と「限度」という言葉を鍵として、今日の箇所全体の意味を考えてみましょう。

1月1日（水）コリント人への手紙第二 11：1～15

1. 悪魔の人をだます方法についてパウロはどのような事を語っているのでしょうか？ この方法について現代に当てはめるとどのような事が考えられますか？
2. ここには、パウロがコリントに人々に対してとっていた行動が書かれています。彼はそのような行動をなぜしていたと言っていますか？

2日（木）コリント人への手紙第二 11：16～33

1. 本物の使徒（パウロ）と偽の使徒の違いをできるだけ多く探してみましょう。
2. 今日の箇所ではパウロについてどのような事がわかるのでしょうか？ この事を書きながら彼はどんな思いでいたと思えますか？

3日（金）コリント人への手紙第二 12：1～10

1. パウロは、深い霊的な体験をしたにもかかわらず、それを自慢しませんでした。彼の誇りとは何ですか、それはなぜだと思えますか？
2. パウロは5節以降で「弱さ」という言葉を用いています。彼はなぜここでそのような事を記しているのだと思えますか？

4日（土）コリント人への手紙第二 12：11～18

1. 11節に出てくる「大使徒」とは、コリントの人々を惑わしている偽使徒の事を指しています。パウロはここで何を言おうとしていると思えますか？ 「大使徒」という言葉の意味は、11：5節も同じです。
2. 18節にテスという人物が出て来ます。彼はどのような人物だと言われていますか？ 彼については8：16～24節でも触れられています。その内容も含めて考えてみましょう。

***今週の箇所から3日以内に始められ、具体的、実現可能で計測することができる計画を聞いてみましょう。**